

(公財) 大阪産業局 ビジネスサポートデスク (インド)

南インド通信 7月号: 「今のインド」の勢い

ベンガルールよりナマスカーラ!

世界的な環境配慮の流れに沿って、当地でも「グリーン化」政策が進んでいる。庶民の足として圧倒的に多い二輪車・三輪車から電動化が進む流れが顕著だ。政府の購入補助金が倍増されてエンジン車との価格差もなくなり、「初めて買う車に電動車」という選択肢も現実的になってきた。

「インドのUber」と紹介されるタクシー配車アプリ「OLA」は近年、インドで最も注目を集めるスタートアップのひとつ。2019年に評価額10億ドルを超え、いわゆる「ユニコーン企業」に数えられる。

そんなOLAがオランダの電動二輪車メーカーを買収したのは、コロナ禍で世界中が混乱していた2020年5月。それから半年の2020年末、今度はベンガルール郊外に「世界最大の電動車工場」の建設を発表した。買収先の車両をインドで国産化し、ドイツ企業との提携で最新技術を盛り込んだ工場で、世界市場を対象に年産1千万台の計画、と謳っていた。

それからまた半年経った今月、「間もなく生産開始」とCEOが工場での自撮り写真で伝え、新型EVスクーターでベンガルール市内各所を駆け巡り「全てが最高」と動画で紹介した。それから数日して受付サイトがオープンするや否や、24時間で10万台を超える購入予約(予約金払い込み)があったという。詳細スペックも車体色も、価格すらも発表されていないのに!

日本の市場規模は11万台強(JAMA出荷統計, 原付第二種 50-125cc, 2020年4月-2021年3月)。スマホアプリのスタートアップがわずか1年で世界最大のEVメーカーに、ケタチガイでダイナミックな「今のインド」の勢いを示す一例。

以上

◎過去に掲載されたレポートは、以下のサイトをご覧ください。

https://www.obda.or.jp/events/ibo_events_all/overseas-from-india